

診断をあきらめていませんか？

— 結核性髄膜炎 —

髄液での塗抹、培養、PCR法の
結果はすべて陰性・・・

感染性の髄膜炎を
起こしているとは思うけど
よく分からない・・・



いままでの検査すべて陰性でも
結核性髄膜炎の場合があります



**結核性髄膜炎 TBM – Nested PCR 検査
をお勧めします**

詳しくは裏面をご覧ください。

 株式会社 メデカ ジャパン・ラボラトリー

鴻巣市天神3-673 TEL 048 (543) 3551 [インフォメーションサービス]

監修 / 日本大学医学部
先端医学講座助教授
中山 智祥

●検査性能

○臨床的感度・特異度

* 日本大学医学部先端医学講座受容体生物学部門中山ら解析結果

		TBM(+)群	TBM(-)群	計
[検一査] Nested PCR	(+)	17	0	17
	(-)	4	29	33
計		21	29	50

TBM(+)群:培養陽性による結核性髄膜炎(TBM)の確定診断例、もしくは臨床的に高度にTBMが疑われる症例

TBM(-)群:臨床的にTBMの可能性が低い、もしくは非TBMの診断確定例

	(従来の) Single PCR	Nested PCR
感度(%)	14	81
特異度(%)	100	100
陽性反応的中率(%)	100	100
陰性反応的中率(%)	63	88
検出限界	10000 コピー/アッセイ	10 コピー/アッセイ

○交差反応性:以下の菌に対する交差反応は認められません

Streptococcus pneumoniae *Streptococcus agalactiae* *Neisseria meningitidis* *Haemophilus influenzae*
Mycobacterium avium *Mycobacterium intracellulare*

●受託要領

項目コード	項目名称	材料	容器	所要 日数	実施料 (判断料)	測定方法
		検体量	保存			
2590	結核性髄膜炎 TB-PCR	髄液	F2 *1	6~10日 *2	保険 収載なし	Nested PCR 法
		1ml	凍結			

*1 容器コード F2:滅菌スピッツ管(スクリューキャップ)

*2 検体をおあずかりした翌日を起算日とします。再検査の場合や祝祭日の前後はさらに若干の日数を要することがあります。

●ご留意事項

- (1) 本検査は非常に微量な DNA をも増幅することができるため不純物の混入 (contamination) が起きやすいという短所があります。その結果は結核性髄膜炎の診断・治療に直接的な影響を与えるため、弊社では解析の各段階で contamination の防止策を講じるとともに、不明瞭な結果が得られた際には再解析した後最終結果報告を行います。
- (2) *M.bovis* BCG の一部の亜株は検出できない可能性があります。
- (3) 判定結果に基づく臨床診断は、臨床症状や他の検査結果等と合わせて担当医師が総合的に判断してください。

●参考文献

- 1) 高橋輝行、小川克彦、澤田滋正、中山智祥、水谷智彦、臨床神経学 43:20-25 (2003)
- 2) 中嶋秀人、芦田京子、山崎英智、篠田恵一、大澤仲昭、臨床神経学 35:521-525 (1995)
- 3) Liu PYF, et al. *Neurology* 44 : 1161 - 1164 (1994)
- 4) Takahashi T, Nakayama T, et al. *Neurology* 64 : 1789 - 1793 (2005)